

かわうちねんぶつけんばい
川内念佛剣舞

- ◇ 指定日 平成18年12月1日
- ◇ 所在地 川内
- ◇ 保持団体 川内念佛剣舞保存会

念佛剣舞は、建治2年(1276年)一遍上人^{いっぺんしょうにん}が信濃^{しなのの}国佐久郡^{くにさく}で念仏を広げるために始めたものといわれています。

天保12年(1841年)に大ヶ生村^{おおがゆう}（現在の盛岡市乙部^{やながわ}）の徳助が阿修羅踊りとして伝受し、盛岡市築川や本市田代の念佛剣舞と同じ系統です。

太鼓、笛、鉦摺りが2人ずつで、8人の舞子（踊り手）は鎧の袖をひるがえしながら踊ります。持ち物は、演目によって刀、扇、長刀を使います。

川内剣舞は、盆の8月15日に地域の家を回向してまわり、16日には地元の流月院の境内で踊って、死者や先祖を供養しています。

また、旧暦6月の川内八幡神社のお祭りでは、神輿行列にお供して踊る「すく踊り」がありました。演目…にわならし・たかだち・扇踊り・城まわし・七つもの・二十三

